

「金融機関向けマネロン勉強会」の概要

第一部 基調講演：尾崎 寛氏（金融庁 総合政策局 リスク分析総括課 マネーローンダリング・テロ資金供与対策企画室長）

第一部では、金融庁の尾崎室長より、「地域金融機関等におけるマネロン対策の現状と課題」と題して、出席した道内の信用金庫、信用組合の役員やマネロン責任者、マネロン実務担当者に対して基調講演が行われた。

講演では、金融庁が実施しているマネロン検査実施先の業態ごとの達成状況や傾向分析について説明があったほか、なぜ、マネロン対策が必要であるかについて、ご自身が経験した疑わしい取引の届出業務に絡めてわかりやすく説明していただいた。

参加者からは、「金融機関の自己評価と当局検査結果に大きなギャップがあることが分かり、今後の体制整備を進めるうえで参考になった」、「マネロン対策がSDGsの目標である『平和と公正』に関係するものであり、改めて世界規模で取り組むべき重要事項であることを再認識した」といった前向きな声が聞かれた。



基調講演の様相



グループディスカッションの様相

第二部 グループディスカッション

第二部は、対面参加者とオンライン参加者に分かれて、それぞれ6-7名の班を編成し、金融庁や財務局職員もファシリテーターとして加わって、各金融機関におけるマネロン対策に向けた取組状況や課題等について意見交換を行った。

参加者からは、「他金庫（組合）がどのような取組をしているのか確認でき、大変参考になった」、「他金庫（組合）も苦労していることがよくわかった」、「ファシリテーターからガイドラインやFAQで表しきれないポイントについて説明があり理解が進んだ」との声が聞かれており、盛況のうちに討議を終えた。

また、対面参加者からは、「コロナ禍の中、久々に直接お会いし、名刺交換や挨拶をしたうえで意見交換できたことは他金庫（組合）との人的つながりになり大変良かった」、オンライン参加者からは、「遠方で参加できない金融機関のためにもハイブリット方式（対面とオンライン併用）はありがたい」との感想をいただいた。